

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	nanairoプランコ2号店		
○保護者評価実施期間	2025年11月28日		2025年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年11月28日		2025年12月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して過ごせる、清潔で構造化された環境が整っており、特性に配慮した支援環境が確保されていること	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容や子どもの特性に応じて、活動スペースを区分し、落ち着いて過ごせる環境設定を行っている。 ホワイトボード、絵カード、スケジュール提示、タイマー等を活用し、視覚的・聴覚的に分かりやすい支援を行っている。 清掃や整理整頓を日常的に行い、衛生面や安全面に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長や特性の変化に応じて、環境設定の見直しを定期的に行う。 職員間で環境設定の意図を共有し、より一貫性のある支援環境づくりを目指す。
2	子どもや保護者との信頼関係を大切にし、共感的な関わりを重視した支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時や連絡帳、面談を通じて、日々の様子や成長の様子を丁寧に伝えている。 保護者の思いや不安に寄り添い、相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。 子ども一人ひとりの気持ちを尊重し、肯定的な関わりを意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報共有の機会を継続的に設け、より安心して利用できる体制を整える。 職員間の支援力向上を目的とした研修や振り返りの機会を充実させる。
3	子どもが楽しみながら参加できる、多様なイベントや体験活動を取り入れていること	<ul style="list-style-type: none"> 季節行事や制作活動、レクリエーション等を通じて、子どもが楽しみながら参加できるイベントを企画している。 成功体験を積み重ねられるよう、子どもの特性や発達段階に配慮した内容や役割設定を行っている。 イベントを通して、集団でのルール理解や人との関わりを学べるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味・関心を踏まえたイベント内容を検討し、活動の幅を広げていく。 地域イベントへの参加等も取り入れ、社会経験や地域とのつながりを感じられる機会を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置状況や支援体制について、保護者に分かりにくい点があること	<ul style="list-style-type: none"> 職員配置は基準を満たしているが、具体的な人数や体制を保護者に伝える機会が限られていた。 保護者が確認できる情報提供の方法が十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児童数と職員配置人数を掲示やお便り等で周知する。 支援体制について質問しやすい雰囲気づくりを行い、丁寧な説明を心がける。
2	子どもの苦手な点や課題について、十分な支援が行われていないと感じられる場合があること	<ul style="list-style-type: none"> 支援には優先順位や段階的な取り組みがあるが、その考え方が保護者に十分伝わっていなかった。 短期間での変化が見えにくい支援について、説明が不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援のねらいや優先順位について、個別支援計画を通じて丁寧に説明する。 支援の経過や小さな変化についても、こまめに共有していく。
3	地域交流、家族支援、非常時対応について、体験や周知の機会が十分でない点	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントや保護者会、避難訓練等の実施回数に限られていた。 実施していても、参加や体験につなげにくい状況があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントへの参加や交流の機会を計画的に増やす。 避難訓練や行事について、事前に分かりやすく周知し、保護者にも内容が伝わるよう工夫する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスnanairoブランコ2号店

公表日 2026年4月30日

利用児童数 53

回収数 29

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	1		2	・利用者と職員の数を見ていない為、 わからない ・利用時に職員の人数がわからない 為	職員配置については基準を満たした体制で支援を行っているが、具体的な人数が保護者に分かりにくい状況があった。今後は、職員配置基準を満たして支援を行っていることについて、参加や保護者会を通して分かりやすく説明するとともに、必要に応じて個別に丁寧な説明を行っていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思	27			1	・ホワイトボードなどの活用があり、 視覚からの情報が 入りやすい工夫などがされていると思う	視覚支援を中心とした環境設定について評価をいただいたことを踏まえ、引き続きホワイトボード、絵カード、スケジュール提示、タイマー等を活用し、子どもが分かりやすく安心して過ごせる環境づくりを継続する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか	29					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支	24	3		1	・自分の子どもが苦手なことを 全ては支援されてない気がする	すべての課題に一度に対応することが難しい場合があるため、支援の優先順位や段階的な支援の考え方について、個別支援計画を通して保護者と共有しながら進めていく。支援のねらいや経過についても、より丁寧な説明を図る。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容	27			2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に	27	1		1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの	25	1		3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか	27			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思	27	1		1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する	9	5	2	13	・1号店との交流はあるようですが、 nanairo以外ではないと思った為	今後は事業所間の交流に加え、地域イベント(おにまるしゅ等)への参加を計画し、地域とのつながりや社会経験を広げられる機会を増やしていく。
保護者へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等に	29					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされ	28			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング	20			9	・個人面談の際のアドバイスや参観レ ク があるのいいと思う	個別面談や参観レクリエーションに加え、今後は保護者会や情報交換の場を計画し、保護者同士が交流できる機会や情報提供の充実を図っていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状	29					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	3		3		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28				1	

の説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の	12	3	4	10	・まだ経験していないため	これまで保護者会の開催機会が限られていたため、経験されていない方がいることを踏まえ、今後は保護者同士が情報交換や交流ができる機会を計画的に設けていく。また、参加しやすい形や内容を検討し、事前に分かりやすく周知していく。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されて	25	1		3		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされてい	28			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡	22	3	1	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	1				
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニユ	24	1		4		
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要	21			8	・未経験の為	避難訓練等について、定期的を実施するとともに、実施時期や内容を事前に周知し、保護者にも取り組みが伝わるよう工夫していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等	27			2		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や	26	1		2		
	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28	1			・未経験の為最初は通所できるか不安でしたが、今では毎週行くことを楽しみにしています。	これまで保護者会の開催機会が限られていたため、経験されていない方がいることを踏まえ、今後は保護者同士が情報交換や交流ができる機会を計画的に設けていく。また、参加しやすい形や内容を検討し、事前に分かりやすく周知していく。
満足度	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28			1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	1		1	いけないこととお話されたと思いますが、信頼関係があるからこそ、自分の指摘されたことを受け入れています。いろいろなイベントを考えて下さり、ありがとうございます。	子どもが安心して通所できていること、信頼関係やイベントへの評価を励みに、今後も子ども一人ひとりに寄り添った支援と、楽しみながら成長できる活動の充実に努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスnanairoブランコ2号店				公表日	年	月	日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		発達支援室の床面積に基づき、法令を遵守した定員設定を徹底している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	児童の特性や重症度に応じ、基準以上の人員配置を行う日を設けている。	配置基準の考え方や、当日の人員体制を組織内で可視化し共有する仕組みの構築。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	ホワイトボード、スケジュール表、タイマー、絵カード等による視覚支援を全室に導入。	構造化の「意図」を全職員が理解し、一貫した運用を行うためのガイドライン策定。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	清掃チェックリストの運用と、整理整頓をルーチン化し安全性を確保。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		興奮時や静養時に柔軟に使用できる個別部屋を設置。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1	5	職員会議での定期的意見交換や、支援方針の検討を実施。	目標設定と振り返りのプロセスを標準化し、全職員が主体的に関与できる体制の再構築。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	前年度の保護者アンケート結果を掲示し、改善への姿勢を明示。	保護者の声に対する「改善の結果」を具体的に集計し、組織内で共有・検証する機会の設置。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	相談しやすい雰囲気づくりと、意見箱や個人面談を通じた吸い上げ。	提案された意見の「検討プロセス」と「採用・不採用の理由」を組織内に公開し透明性を高める。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	福祉サービス第三者評価の受審に向けた検討を開始。	客観的な自己評価の重要性について組織全体で共通認識を持ち、受審を習慣化する。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内研修を月1回行うことを徹底。				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	2	Instagramに掲載している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2	4	標準化された評価指標に加え、多角的な視点でのニーズ分析を実践。	アセスメントツールの使用方法と分析手法をマニュアル化し、組織内で統一した精度を確保。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	児発管、保育士、指導員が各々の専門性を活かした意見交換会を実施。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	3	個別支援計画をPC等で常時確認できる体制を整備。	計画の「更新内容」を即時に組織内へ浸透させ、支援の統一性を高める手順の再定義。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	日々の行動観察(インフォーマル)と各種発達検査(フォーマル)を併用。				

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	4	本人・家族・移行・地域連携の4領域を網羅した計画策定を意識。	ガイドラインの具体的な支援目標と、日々の活動内容との紐付けについての理解を深める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	プログラム会議で、担当職員が交代で活動案を提案し集団検討。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		定番活動に加え、季節行事や流行の遊び、保護者提案の活動を随時採用。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	集団活動の中でも、必要に応じて個別の課題設定やクールダウン時間を設定。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼にて当日利用児童のADL、留意事項、役割分担を全職員で確認。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		朝礼にて「前日の気づき」を共有し、配慮事項を決定。	業務の優先順位を整理し、翌日に振り返り時間を安定的・継続的に確保する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	3	システムを活用し、活動中の様子を即座に記録し共有できる体制。	記録を単なる「報告」で終わらせず、支援計画の有効性検証に繋げる組織的な手法の確立。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	半年ごとの定期モニタリングに加え、大きな変化がある際は随時実施。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1	基本活動に基づき、身体、認知、社会性の各領域をバランスよく構成。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2	4	複数の選択肢を提示し(2択・3択)、本人が選ぶプロセスを重視。	組織として「自己決定」を促す具体的なコーチング手法を統一し、支援力を底上げする。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	4	サービス担当者会議には、主担当職員が詳細な経過報告書を持参。	会議で得た「他機関からの情報」を組織全体へ迅速・正確にフィードバックする仕組み。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2		協力医療機関や相談支援事業所とのホットラインを構築済み。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	4	1	送迎時の担任との対話や、学校行事予定の早期把握と共有を実践。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2		幼稚園・保育所からの引継ぎ情報を踏まえた初期アセスメントの実施。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		2	進学・就職先へのサマリー提供に向けた準備体制を整備。	移行支援のフローを再確認し、実績が少ない場合でも対応できるよう組織的に備える。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	1	児童発達支援センターからのスーパーバイズを受入れる体制。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	1号店との合同活動や、一部の地域交流機会を設定。	地域資源(児童館・クラブ等)との連携を計画し、組織的な実績作りを推進する。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		3		今後、参加を検討

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状態や課題について共通理解を持っているか。			連絡帳や送迎時の対面コミュニケーションにより、日々の課題を共有。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		専門機関のセミナー情報共有や、家庭での関わり方の個別助言を実施。	組織として提供する「家族支援プログラム」の内容を明確化し、周知を徹底する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1	5	契約時に重要事項説明書を用い、多言語や視覚資料を併用して説明。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2	1	モニタリング時以外でも、随時の面談希望に柔軟に対応。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	1	文面での説明に加え、支援のねらいを口頭で丁寧に解説し同意を取得。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		臨床心理士や経験豊富な職員による、専門的な子育て相談窓口を設置。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会参観レクを通じた交流機会を企画。	保護者会の活動目的や支援方針を組織内で再定義し、運営サポート体制を強化する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	3	苦情受付担当者の配置と、第三者委員の選任による透明性の確保。	苦情解決の「プロセス」を組織内の知見として共有し、再発防止に活かす体制の構築。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		SNSでの活動紹介を継続。	発信情報の到達度を確認し、公表情報の周知が徹底されるよう組織内意識を高める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	3	鍵付き書庫の管理と、デジタルデータのアクセス制限・パスワード設定。	個人情報保護の「具体的運用ルール」を再点検し、組織全体への再徹底を図る。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2	3	外国籍の家庭や聴覚・視覚障害のある保護者への個別配慮。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	事業所外への積極的な活動公開や、ボランティアの受け入れ検討。	地域住民を招待するオープンデイ等の行事を計画し、地域共生の意識を醸成する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	半年の避難訓練に加え、水害想定での訓練も実施。	各種マニュアルの所在と「最新版の内容」を全職員が即座に把握できる周知体制。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	3	感染症・災害発生時の業務継続計画(BCP)を策定済み。	BCPの内容を具体的なアクションカード化し、緊急時に誰でも動けるよう組織的周知。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか。	3	3	通所前の検温記録や、既往歴・アレルギーの年次更新を実施。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	2	指示書に基づき、配膳時のダブルチェック体制を構築。	担当者以外でも「緊急時の対応手順」を完遂できるよう、組織的な実地研修を強化。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	4	送迎車両の安全確認装置導入や、療育器具など備品の定期点検を安全計画に反映。	安全計画の具体的内容と、実施している安全対策を組織内で常時共有する仕組み。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	契約時、安全管理への取組を説明。	周知の方法とタイミングを標準化し、全家庭に漏れなく情報が伝わる手順の確立。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	2	事故・ヒヤリハット報告をデータベース化し、会議で分析。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会を設置し、セルフチェックの実施と定期的研修。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		切迫性・非代替性・一時性の3要件を遵守し、手続をマニュアル化。	